

最終更新日：平成 28 年 10 月 4 日

第54回技能五輪全国大会「貴金属装身具」職種 Q&A

Q 1：貴－8 ページ 支給材料

パイプ材の厚みは指定がありますか？（記載は $\phi 2.5 \times 120\text{mm}$ ）

A 1：パイプ材の板厚は、 $t 0.4\text{mm}$ を予定しています。加工過程で若干の変動があると思いますが、競技には影響がないものと考えています。

Q 2：貴－5 ページ 2-5

「パイプ石座中心の爪は、 $\phi 0.7\text{mm}$ の受け穴を設けてから、爪を立てろ う 付けすること」とされています。

その際、爪受けの穴の深さは石座途中までで良いのでしょうか？それとも貫通させるべきでしょうか？

A 2：G 部：パイプ石座の中央爪の受け穴（下穴）は、貫通させて下さい。

Q 3：G 部の裏図面をみると、パイプ間の隙間なく描かれています。図面上の省略表現でしょうか？

A 3：Q 2 の作業後、中心爪をろう付し、パイプ石座の背面側を丁寧に擦り合わせて面一に仕上げてください。

なお、爪ろう付時のろう材の過不足は、減点の対象としますので注意すること。

Q 4：貴－5 ページ 第 2 課題：2-3

「F 部の外側の縁（外郭）は、わずかに丸味をつけて、引っ掛かりがないように施工すること。」とありますが、F 部の外側の縁（外郭）をわずかに丸味をつけるということですが、F 部の上部外周と考えてよろしいのでしょうか？

A 4：F 部：花卉状装飾部の外周（外側輪郭）と解釈してください。

なお、「引っ掛かりがないように」と指示があるように、課題 F 部に於いて、引っかかるおそれのある部分は、特に丁寧な作業を行ってください。

公 表

Q 5 : 貴－ 5 ページ 第 2 課題 : 2-8

「H 部側面のスリット（透かし窓）は、課題部分図に点線で示される位置まで設けること。」（2 段腰のように、分離された石座にはしないこと）について、H 部側面のスリットは、課題図点線までと言うことですが、石座の両面から点線まで入れ、点線の内側は、石座の上下共にスリットはいれないと言うことでよろしいのでしょうか？または石座の下にはスリットをいれず、上は両側面とつなげてスリットを入れると言うことでしょうか？

A 5 : 『(2 段腰のように、分離された石座にはしないこと)』と指示しました。

基本的な形状・作業方は、『技能検定 3 級の実技試験の石座に施すスリット作業』と同じであると解釈してください。

なお、国際大会において、選手の判断裁量と創意工夫により、優美な作品に出来上がると判断し作業を行った場合には、何ら問題にはなりませんでしたが、しかし、ろう付作業によってスリットにろう材が流れ込む、石座の形状が歪む、指定サイズと異なるサイズになるなど、仕様の指示に対して作品の出来栄えに問題が生じた場合（見栄えが悪いなど）には、減点の対象といたします。指導者の方は、選手とよく話し合い作業の指導にあたってください。

Q 6 : 貴－ 4 ページ 第 1 課題 : 1-5

「石の座りが良いように面取りを施すこと。また、裏面側には、裏取り作業を施すこと。」について、

石のすわりが良いように、下穴に面取りを施す仕様ですが、ガードルがはまるまで面取りを施した方が良いでしょうか？

またはパビリオンがはまるぐらいの少しの面取りのみでよろしいのでしょうか？

A 6 : 指定されたダイヤモンドの大きさ、指定された下穴のサイズ、指定された支給材（板材）の厚み、裏取り作業の指定などの条件等がありますので、ガードルがはまるまでの作業は、必要ないものと考えています。

しかし、下穴の穴あけ作業時にバリが残っている場合などは、減点の対象といたします。

石留め作業までは、課題とはしておりませんので、各指定されたダイヤモンドを下穴に合わせた場合に、「石が中心線上に安定した状態で並ぶように」と解釈していただき、それに見合った面取り作業を行ってください。

公 表

Q 7 : 貴－ 4 ページ 第 1 課題 : 1-7

「D 部は、第 1 課題全体の間中採点を行うため、A 部・B 部にろう付しないで提出すること。」 【 総合課題の時間内に組み上げ作業を行うものとする 】 について、

D 部は、第 1 課題の間中採点の為、A 部・B 部にろう付けしないとありますが、上部石座のパーツ（ひし形）と曲げ加工するバチカン部もろう付けしないバラバラの状態では提出するのか、ろう付けして提出するかのどちらでしょうか？

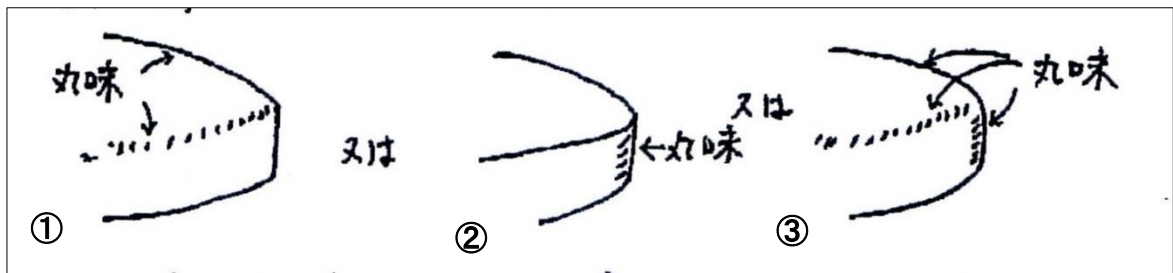
A 7 : 第 1 課題の提出についての質問ですが、D 部（チェーン通し部）は、上部の五角形(駒型)の形状部材と下部部材とはそれぞれろう付を行わない状態で、提出していただきます。

最終的な、五角形(駒型)の形状部材と下部部材との擦り合わせ作業、ろう付作業は、競技 2 日目の【総合課題：総合加工 及び 仕上げ】で行います。

Q 8 : 貴－ 5 ページ 第 2 課題 : 2-3 について（再質問）

Q&AのQ 4で回答頂きました部位は、外周（外側輪郭）とありましたが、「A パーツ」上部と側面（厚み）で成り立つ角のみを丸みを付けると言う解釈でよろしいのでしょうか。 又は、側面（厚み）で成り立つ厚みの先端も丸くするのでしょうか。

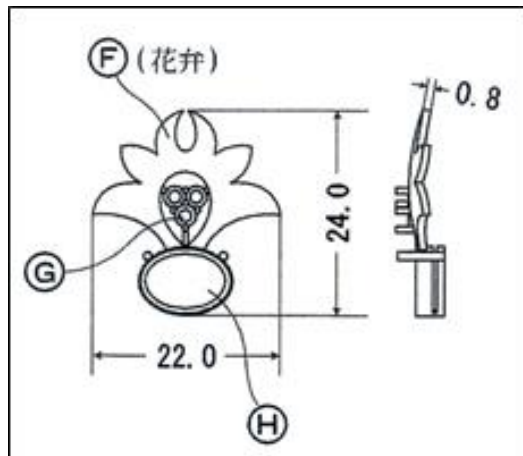
【図面が添付されていたので、図面も表示します。なお、囲み数字は回答の為、後付けしてあります。】



A 8 : 貴－ 5 ページ 第 2 課題 : 2-3 についての再質問として回答致します。

質問にある『A パーツ上部と側面（厚み）で成り立つ角のみを丸みを付けると言う解釈でよろしいのでしょうか。』との質問ですが、国際大会形式に則ったモジュールによる作成方法を採用しています。

第 2 課題では、第 1 課題で取り上げている「A パーツ」は作業外の内容でありますので、F 部（花卉状装飾部）について回答致します。



第2課題：2-3の仕様については、添付いただいた図面の①を基本として考えてください。（背面側では、特に丸味を付けるように指示は出していません）
ただし、F部（花卉状装飾部）には、鋭角な形状を示している部分もあります。そのような個所に於いては、①に示された丸味付けだけでは不十分と考えています。

選手のご指導にあたっては、「100%正しい」という答えは有りませんが、競技課題仕様（a）で謳っているように、選手が判断裁量でき、創意工夫の元、優美な作品が作り上げられる力が付くようにご指導ください。

なお、国際大会においては、前日に作成仕様が変更されるなど選手に対して、臨機応変な作業が求められ、それに対応する実力を持ち合わせていない選手では、上位に入賞することが難しい状況にあるようです。